



一流シェフや 上野焼と魅惑のコラボ

JALとのつながりから福智町との絆を深めた博多の一流シェフ集団「博多ミラベル21」が「赤池梨」と「福智産卵」を使った新作ジェラートを監修。こだわりの味を追求し、特産品開発委員会が試作を重ねました。上野焼の魅力を活かしたフタ付タンブラーやジェラートカップはまたたく間に完売。上野焼菓子皿付の抹茶セットも「博多ミラベル21」が菓子を特製しました。



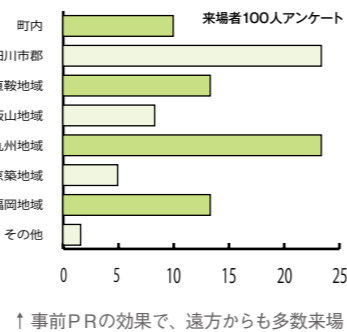
36店舗のスイーツ集結 初日は完売続出

福岡の人気店をはじめ36店舗が一堂に会した県内最大規模のスイーツイベント。初日は2日分のスイーツが1時間足らずで完売する店舗もあり、予想を上回る来場で売り切れが続出、商品の補充に忙しい様子でした。秋ならではの商品や今回限定の商品、出来たてを提供する店舗も大好評。茶会のテーマにそって、飲み物は小倉辻利の抹茶のみにこだわりました。



へいちくフェスタと同時開催

金田駅裏の金田ドームで開かれた「福智スイーツ大茶会」は「へいちくフェスタ」の一環として開催されました。例年1日開催の「へいちくフェスタ」も期間を2日間に延長。100円列車の運行や沿線各駅でご当地グルメや駅弁などの多彩なイベントが展開され、景品が当たるスタンプラリーも乗客の人気を集めました。



ラーや上野焼カップで味わう「ふくち☆リッチジェラート」、上野焼抹茶セットは、両日とも販売開始30分で完売するという人気ぶりでした。

一方、運営には実行委員や町職員はもちろん、環境保護を協働するTOTOや地域活性化で連携する福岡県立大学が力を合わせ、延べ71人のスタッフで対応。「二期一会」をテーマに最大限のおもてなしを心がけました。観光PRイベントとして生まれた「フクチ・ファインド・フェスティバル」が3回目、一つの集大成を飾った「福智スイーツ大茶会」。この日この場での出会いとつながりを大切に、また新たな感動のステージへと発展していくよう期待が高まっています。

当時、国を代表する大名茶人だった細川忠興が創始した上野焼。その茶陶としての特徴を最大限に生かせるのが「茶会」です。茶器や花器をはじめ、花、掛物などが織りなす茶室の空間は、人と物とが一体となり、そこに流れる時間そのものが「和の総合芸術」だと言われています。今回さらに、抹茶に欠かせないお菓子、スイーツの魅力にスポットがあてられました。「福智スイーツ大茶会」では、「和と洋」「伝統とモダン」の調和を演出。野点の設えや旗やタペストリー、上野焼に生けた花々で飾られた会場に、ステージの生演奏が流れる中、36店舗の200を超えるスイーツが並びました。甘い香りに包まれた金田ドームが、一つの大茶室となり、福智ならではの空間が実現。限定販売された上野焼特製タンブ

平成の大茶会 福智の魅力で デコレーション 感動空間の協奏



↑ 近隣市町村だけでなく福岡・北九州両都市圏からも福智に集結した出店店舗のみなさん。

観光パンフレット

「福智町お散歩手帖」

町内全窯元の紹介をはじめ、山や自然、祭りや特産品など福智の魅力を網羅。持ち運びやすいB5サイズで情報満載の44ページです。

■ まちづくり総合政策課
政策推進係 ☎ 22-7766



無料広告に努め PRの効果がカタチに

今回、特化したのが大茶会と町のPR、無料告知に努めました。新聞4社はもとより、テレビやラジオでは7回の放送で、合計放送時間は30分超に。また福岡walkerやタウン誌にも無料掲載されるなど、話題性を活かしたPRが遠方からの集客につながっています。さらに大茶会に合わせて「観光パンフレット」も刷新。次のイベントにつながるPRを行いました。

INTERVIEW

大茶会のテレビを見て、思い切って行ってみたいと、初めて福智を訪れました。インターネットで調べると知らないことばかりで、いろんな魅力が眠っているいい町だと感じました。

今井俊郎さん・彩さん(福岡市)



スイーツドームを彩る ステージ演出

茶会の本質である茶道のお点前を裏千家辻村社中が披露。体験型のワークショップでもお茶の魅力が伝えられました。会場のムードを存分に高めた音楽ではヴァイオリンやジャズ、サクスの音色が会場全体を包みました。河村光陽の生誕地として育まれたコーラスでは、文化連盟音楽部会から4団体が出演。「音楽の町」が誇る見事なハーモニーを披露しました。

